

学校教育目標		校訓「みずから学び みずから鍛え みんなと生きる」を体現する生徒の育成							
重点努力事項		(1)質の高い授業を実践することによって基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の育成をバランスよく図り、自ら課題意識を持って友と高め合うことのできる生徒を育成する。 (2)あらゆる教育活動を通じて辛抱・我慢できる心、困難に打ち勝つことのできる精神力、自己コントロールできる力を鍛え、強くたくましい心と体を育成する。 (3)人のために自分には何ができるかを考え行動することが、最終的に自己理解や自分を大切にすることにつながることを実感させ、将来の進路選択への展望を持たせる。							
分掌重点目標		規則正しい生活習慣を定着させるとともに、ルール・マナー・モラルの向上と共生の精神を尊重する態度を育て、地域に貢献する意欲を高める。							
H26年度 成果と課題 Do&Check	H27年度への提言 Action	分掌がめざす生徒の姿	分掌目標 Plan	主な活動 Do	活動へ向けての努力事項 Do	到達目標	評価基準(Check)	成果と課題 Do&C heck	来年度への 提言 Action
<ul style="list-style-type: none"> 睡眠時間46.4% 就寝時刻33.3% 起床時刻68.1% TV視聴時間68.7% <p>起床時間はいい、睡眠時間が少ない。就寝時刻が遅い。</p>	<p>基本的な生活習慣を身につけるの項目は健康安全指導と同じことなのでそれぞれで徹底させる。規範意識の徹底が崩れているのでそれぞれに重きをおく。メディアとの付き合い方は継続して啓発していく。</p>	<p>自明ル自人 他る一分に をいれを喜 価挨を大ば 値擲守切れ、 ありに る節・し、人 存度マ、に 在あナ他役 とる一人立 しきををつ てび身大自 実きに切分 感びつにが ししけす好 、た・るき 共行モ自な に動ウ分生 生がるが徒 きとの好 るれあき 仲るるな 間自自生 と分分徒 しがが て好好 活きき 動なな で生生 き徒徒 る生徒</p>	<p>〇〇〇 達ル規 成一則 感ル正 ・・し 役マイ 立ナ生 感一活 をモ慣 得ラと ル規 れの確 を立定 動を着 をめさ せやす</p>	生活指導	<p>規範意識の高揚 メディアとの付き合い方、情報モラルに関する啓発活動 〇生活振り返りアンケートを年3回実施(7・11・2月)し、集計・分析して生徒保護者への啓発 〇メディアとの付き合い方の啓発(講演会等) 〇生活委員会指導</p>	<p>〇ルールを守り、マナーを身につけ、モラルを高める。 〇メディアの利用を自己管理できるようになる。 〇情報モラルの講演会の実施(保護者・生徒対象)情報モラルに関する授業の実施(道徳)</p>	<p>〇生徒質問紙「私は、ルール・マナー・モラルを大切に生活している。」80%以上 〇教職員質問紙「ルール・マナー・モラルを守り、規範意識を持って生活できるよう適切な指導がなされた。」80%以上 〇生活振り返りアンケート「服装・頭髪など学校のルールを守って生活していますか。」80%以上 「学校がある日のお放課後、1日にどれくらいメディアを見たり、使ったりしますか」2時間未満70%以上 〇情報モラル講演会年1回開催、情報モラルに関する授業の実施</p>		
<p>望ましい食生活の重要性(知識)は理解しているが、それらが生活に結びついていない生徒がいる。</p>	<p>生徒にどのような力をつけさせたいかを明確にし、生徒・保護者への啓発を継続する。家庭での実践に向けての方法を研究する。</p>		食育指導	<p>食に関する正しい知識と、望ましい食習慣を身につけている生徒の育成 〇給食時間の指導 〇掲示物、配布物による啓発 〇生活振り返りアンケート、食生活アンケートの結果を分析し、生徒保護者に向けた啓発活動 〇給食委員会と連携した指導</p>	<p>〇早寝・早起き・朝ごはんの定着。 〇栄養の偏りなく食事をしようと思えることができる。</p>	<p>生活振り返りアンケート 〇「朝食をとる」が90%以上 食生活調査 〇「主食・主菜・副菜がそろっている」28%以上 〇「栄養のバランスを考えて食べている」35%以上 〇「苦手なものでもがんばって食べている」50%以上</p>			
<p>朝食を食べる生徒は95%と昨年度と同値であった。食べない習慣となっている生徒は個別指導を継続する。 ・睡眠時間は7時間以下の生徒は53.6%と多い。 ・メディアの利用時間3時間以上の生徒12.4%であった。 夜の歯みがき3分以上は約70%であった。</p>	<p>基本的な生活習慣の定着を目指して、生徒が自覚しやすくなるよう指導を中心に自分の健康を意識できる集団・個別指導を充実させる。 メディア利用は、睡眠時間・生活リズムの視点と心の健康や性教育の視点から、今後の指導を検討していく必要がある。</p>		健康安全	<p>進んで健康増進活動や安全な生活に取り組む生徒を育てる。 〇基本的な生活習慣の定着に向けた啓発活動を行う。 〇保・小・中が連携した歯磨き指導を実施する。 〇健康・安全を意識した生活の啓発活動を行う。 〇生徒保健委員会と連携して健康生活の啓発活動を行う。</p>	<p>〇生徒に早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付く。 〇給食後の歯磨き・夜の歯磨きが習慣化できる。 〇メディアの利用時間が合わせて1日2時間以内になる。 〇屋休憩の体育館利用者が増える。 〇廊下でのけががない。(振興センター対象)</p>	<p>〇朝食を食べる習慣が身についている生徒が90%以上 〇睡眠時間7時間以上の生徒55%以上 〇メディアの利用時間2時間以内の生徒平日70%以上 〇夜の歯磨き3分以上65% 〇歯みがき強化週間ていねいにみがいた65%以上</p>			
			交通安全	<p>進んで交通のマナーやルールを守れる生徒を育てる。 〇町区別生徒会を利用し、通学路の徹底と危険箇所を確認し、意識を高めさせる。 〇バスのマナー、自転車のマナーの定着に向けた啓発活動を行う。 〇年4回の街頭指導により、生徒の登下校の様子を複数の教員の目で確認し、啓発活動を行う。</p>	<p>〇生徒の交通安全の意識を高め、登下校中の交通によるトラブルを〇にする。</p>	<p>〇生活振り返りアンケート「交通のルール、マナーを進んで守ることができた。」というような項目を増やし、評価する。</p>			
<p>今年度新規の不応(前年度からの継続は除き、不応を原因とする年間欠席30日以上(生徒)は2名。未然防止に向けて、全職員で対応できた。</p>	<p>今年度の体制で引き続き取り組み、未然防止の課題が出てきたらその対応策を練る。</p>		教育相談	<p>〇各学期に1~2回、不応対策委員会を実施し、話し合われた不応生徒の実態把握とその対応を校務フォルダで見えるようにする(全職員共通理解)。 〇年3回(5月GW、運動会、文化祭の後)、教育相談アンケートを実施し、不応傾向が現れていない生徒等の実態把握と対応を行う(校務フォルダで全職員共通理解)。 〇OSCによる相談(カウンセリング)の対象生徒・保護者と日時を校務フォルダで見えるようにし、全職員が共通理解すること、SC相談をチーム対向へ効果的につなげる</p>	<p>〇不応の未然防止及び不応生徒への適切な対応について、不応対策委員会にて課題と目標を共有しチームで対応を行う。 〇生徒と関係教員等が同じ目標を意識し、できるようにしたことを適切に評価するチーム支援を行う。</p>	<p>〇教職員質問紙「学校不応対策は委員会を中心に計画的に実施されている。」90%以上 〇全校教育相談アンケート「不安なこと等(例、友達関係、学習、部活等)」を挙げることができる生徒50%以上</p>			
<p>支援計画に基づいて支援を行うことができた。各教科の振り返りをもとに来年度の計画をたてることができた。</p>	<p>支援計画、指導計画の内容を速やかに各教科担当に情報提供し全職員で支援をおこなう。</p>		特別支援教育	<p>全職員で共通理解を行い支援を行う 〇「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいた支援活動を行う。 〇各学期1回、校内支援委員会を実施する。 〇年2回、校内就学指導委員会を開き、適切な就学指導を行う。 〇職員研修会を行う。(夏休みに実施) 〇関係諸機関との連携。</p>	<p>〇「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいて、教職員が連携し個別支援を行うことができる。 〇研修を行い具体的な支援法がわかる。</p>	<p>〇校内支援委員会を行い、支援方法の確認を行うことができた。 〇校内研修で具体的な支援方法がわかった。</p>			
<p>〇「相手の意見も自分の意見も大切に話し合い、より良い方法を考える」の肯定的評価82.7% 〇「話し合い、協力し合って課題解決に取り組んだ」の肯定的評価70.9% 意見が対立したときに解決の方法を探る姿勢が1年生が特に低い。 〇年間計画の見直しができなかった。</p>	<p>学級活動などで、意見が対立する場面をあえて設定することにより、生徒たちに解決する方法を考えさせたり、教師からアイデアを提供したりして、対立場面を解決する経験をさせる。 授業で使う資料の見直しとボランティアに参加した生徒へのプラスのフィードバックを行う。</p>		人権教育	<p>〇「人権教育マネジメント」に基づき、「人権としての教育(学力保障)」「人権についての教育(人権意識を高める指導)」「人権が尊重された教育(仲間づくり)」を全校体制で行う。</p>	<p>〇自分の思いを表現し、人の思いを受け止めながら、落ち着いた生活を実践することができる。 〇相手との対等な関係を考えながら会話・行動しようと思えることができる。</p>	<p>「人権教育アンケート」 〇「相手の意見も自分の意見も大切に話し合い、より良い方法を考える」の肯定的評価90%以上 〇「話し合い、協力し合って課題解決に取り組んだ」の肯定的評価75%以上</p>			
<p>無言掃除は概ねできている。3学期は時間いっぱい掃除に力を入れ、15分間掃除をする意識を高めることができた。緑化ボランティアは2学期は実施できず。3学期はクラスごとに参加者を募ったが、参加者があまり増えなかった。</p>	<p>無言掃除、時間いっぱい掃除の徹底を図る。 緑化ボランティアへの参加者を増やすための取り組みを行う。</p>	環境美化	<p>自ら進んで環境をよくしようとする生徒の育成 〇無言掃除、時間いっぱい掃除の徹底 〇環境委員会との連携による緑化活動の推進</p>	<p>〇積極的に清掃活動に取り組む生徒が増える。 〇緑化ボランティアの増加</p>	<p>〇生徒質問紙「私は節水節電など環境を改善する意識を持って行動している」の肯定的評価が84%以上 〇無言掃除、時間いっぱい掃除を徹底しようとしている</p>				